

令和4年度 貝塚中学校経営計画

大田区立貝塚中学校

校長 柳井 裕明

1 学校の教育目標

人権尊重の精神と国際人としての資質・能力を身に付け、心豊かで生きる力をもった生徒を育成するため、次の目標掲げる。

- 進んで学び、広い視野をもった人間を育てる。
- 思いやりがあり、責任を重んじる人間を育てる。
- 健康で明るく、たくましい人間を育てる。

2 目指す学校像

- 生徒にとっても、教職員にとっても、今日が楽しく、明日が待ち遠しい学校
- あいさつがしっかりとできる生徒・清潔感のあるきれいな学校
- 生徒の美しい歌声が響く学校

現在、活指導面では、大きな荒れはみられない。校内での最低限の生活や授業規律は確保されている。ほとんどの生徒が授業に集中して取り組んでいる。

また、各行事に対する生徒の取り組みは、大変に熱心で、その思いが団結心を呼び起こし、達成感や充足感を与えている。

しかし、落ち着いてきたとはいえ、気を緩めるといつ崩れてもおかしくないのが実情である。したがって、生徒の心の安定を図り、授業はもとよりあらゆる教育活動において生活指導の充実を基盤として、学力をさらに向上させる課題に対応していく。

そこで、本校の教育目標の達成のために次のような学校づくりを行う。

- (1) 達成感、充足感、自己有用感を味わわせ、心の安定を図る学校
- (2) 「確かな学力」をはぐぐむことを目指し、基礎・基本の定着を図る学校
- (3) 安全を確保しつつ、保護者・地域と連携した、開かれた学校
- (4) 明るい学校・きれいな学校・安心安全な学校・楽しい学校
- (5) 学校行事において生徒一人一人の活躍の場があり、美しい歌声が響く学校

3 目指す生徒像

- (1) 賢い人・正しい目をもった生徒
 - ・正しいこととまちがったことの判断ができ、自分を省み、自分を律し、考えて行動できる生徒
- (2) 意志の強い人・聴く耳をもった生徒
 - ・自分の目標をもち、責任をもって努力し、最後までやり抜く生徒
- (3) 優しい人・思いやりの心をもった生徒
 - ・人の痛みがわかり、誰にでも優しく公平に接し、集団の中でお互いに協力することができる生徒
- (4) 何事にも感謝の気持ちを忘れない生徒
 - ・親や地域の人、教師や友人等、多くの人に支えられて、今を生きていることの喜びをしっかりと理解できる生徒

4 学校経営目標(重点目標の設定)と方策

(1) 中期的目標と方策

- ① 自分の学校を誇りと思える学校づくりをめざし、生活指導の充実と部活動の活性化を図る。
 - ・生徒が主体となって活動する生徒会・委員会・学校行事・部活動にし、「やればできる」という自尊感情をもたせ、前向きに意欲的に行動する気持ちを育てる。
- ② 落ち着いた学習環境作りに努め、基礎学力を向上させる。
 - ・授業規律を確保するために、教師の授業力向上をはかると共に、ICT機器を積極的に活用し、学習習慣を身につけさせる。
- ③ 自己実現を目指した体験的活動を重視し、キャリア教育の推進をはかる。
 - ・知識や理解だけでなく、体験的活動を通して、総合的に考え判断していく力を育む。また、職場訪問・職場体験を通して働くことの意義を理解させ、社会性を育てる。
- ④ 「文武両道」に「道徳」を加え、「文武徳三道」を目指す。
 - ・知・徳・体の3つがバランスよく調和のとれた生徒の育成を目指し、本校の教育活動のあらゆる場面で啓発するとともに浸透させていく。

(2) 今年度の目標と方策

- ① 生活指導の充実・・・「あ・じ・み」(あいさつ・時間・身だしなみ)と「し・ぬ・な」(死んではいけない・盗んではいけない・投げてはいけない)の徹底をはかる。
 - ・行事への取り組みや生徒会活動、部活動等に主体的に関わらせ、達成感・充足感を数多く味わわせることで、問題行動の抑制と心の安定を図る。
 - ・学校行事や学年行事の中で行う集団行動・集団生活を通して集団規律の確立と規範意識の向上を促す。特に、合唱コンクールを中心として、歌うことの楽しさを感じ、美しい歌声があふれる学校を目指す。
 - ・道徳や学級活動、朝礼講話等を通して、生徒の人権意識の向上を図り、命の大切さを理解させるとともに、いじめをしない・させない指導を徹底する。
 - ・校内における言語環境を整えるとともに、身だしなみ指導を実施することで頭髪や服装を整えさせ、貝塚中学校の生徒としての自覚と責任をもたせる。
 - ・あいさつ運動を推進し、地域ぐるみで生徒の健全育成を図る。
 - ・理屈抜きに、「ならぬことは、ならぬもの」(だめなものはだめ)というルールを徹底し中学生らしい中学生の育成を図る。

② 学習指導の充実

- ・授業規律を確保し、生徒が集中して授業に取り組む環境づくりと、指導法の工夫・改善を行う。
- ・各教科の授業改善プランに基づき、各学期にその達成状況を確認しながら、「わかる授業」を目指す
- ・放課後補習および土曜日の補習教室において、基礎基本の定着を図るとともに、定期考査に向けた学習に取り組ませる。
- ・生徒に貸与されたタブレットと、校内のICT機器を積極的に活用した授業を推進する。

③ 教員の資質と指導力の向上

- ・教員各自が、キャリアプランに基づき研修課題を明確にし、校外での研修会や研究会に参加し、自己研鑽に努める。
- ・各教科のシラバス（年間指導計画、評価・評定等）や授業改善プランに基づき、指導法の工夫・改善に努め「わかる授業」を目指していく。
- ・すべての教科で電子黒板をはじめとするICT機器を活用した授業を取り入れ、生徒の興味・関心を高めるとともに、授業力の向上を図る。
- ・若手教員を積極的に登用し、学校組織としての計画性や協調性を身につけさせ、将来のリーダーを育成する。

④ 安全と防犯

- ・自分の安全は自分で守ろうとする態度と実践意欲を育てるため、定期的に防災・防犯の訓練を行う。また、日常の計画的な交通安全指導も行う。
- ・非常災害時における地域防災体制を具現化するため、避難所運営連絡会との連携を強めるとともに、学校防災拠点としての態勢を構築する。
また、大規模災害における生徒の安全を図るための防災教育に力入れる。

⑤ 小中一貫教育

- ・貝塚中学校区の小学校と9年間を見通したカリキュラム作りを検討し、指導の連続性、教員の専門性を生かした指導力を向上させ、小中一貫教育推進のために、小中合同の研究会を各学期1回行い、共通認識を生かす。また、小学校と生活指導面での連携を強化し、共通のスタンダードに基づいた指導を展開していく。
- ・各学校の特長や教師の専門性を共有するため、意識を育てながら絶えず情報交換を行う。

⑥ その他

- ・伝統行事である「体育祭」「若木祭（合唱・舞台発表）」に自主的かつ意欲的に参加する姿勢をもたせる。
- ・「歌声の響く学校」にするために、合唱コンクール以外の行事や集会でも合唱の機会を作り、生徒自らが「歌いたい」という気持ちを持つように環境を整えていく。
- ・生徒会活動の活性化と、生徒のボランティア精神を培う活動を推進する。
- ・いじめ・不登校・虐待の早期発見、早期対応のため、教育相談の手法(受容、傾聴、生活指導部会、事例検討会、スクールカウンセラー)を生かして相談活動に取り組む。
- ・6月と11月に行われる「大田区安全安心月間」のメンタルヘルスチェックやハイパーQ Uを活用し、生徒面談を実施、いじめや悩みについての早期発見・相談を行う。
- ・週休日の授業参観や学校公開週間を設定し、地域・保護者に積極的に学校を公開し、学校の教育活動への地域・保護者の理解や参画を推進する。
- ・特別支援教育委員会を設置し、特別支援コーディネーターを中心に各学年で、個別指導計画を作成し、スクールカウンセラーと連携しながら特別支援教育を推進する。
- ・各行事の取り組みを通して、生徒に愛校心をもたせ、生徒・教職員・保護者・卒業生・地域が一体となって本校を支えていく体制を確立する。

以上